

上人此地を卜て、本願寺を建立せしほど、小坂の號を祝ひ更め、始て大坂と呼びしにはあらじか、何れにも此寺建立せし後に改めしものと見えたり、但ししか呼かへたる事やがて世間にしるべくもあらねば、暫くはなほ舊名にのみ他し方よりは呼てぞ有けむ、○中 其後天正に及びては、凡て大坂とのみ呼びけむとぞおぼゆる、されば小坂はいと古き名とおもへど、いつばかりよりともしるべき由なし、○下

〔經厚法印日記〕享祿五年八月八日、自堺津打向大坂、○津州合戰、一揆又失利、下間刑部大夫等討死也、

〔二水記〕享祿五年九月廿六日、巷説云、堺儀、依不通不慥聞、○尾坂未攻落如何云々、○中 十月廿日、○中

略 風聞云、堺武家近日御出奔、御落所不慥聞、○尾坂一向衆不及指合戰、○中 略

〔續應仁後記〕畿内近國一揆所々騷動事

細川晴元ハ淡路國ヨリ歸帆シテ、同二年○天文四月六日ノ夜、池田ノ城ニ落著ケル、斯ニテ各々評議

シテ、堺庄ヲ取返サント、多勢ヲ催シテ、同月廿九日ニ打立、堺ノ庄ヲ攻ケル程ニ、一向門徒等悉攻

破ラレ、本願寺上人ハ、堺庄ヲ落去テ、攝州西成郡石山ノ庄ニ居住セラル、此石山ハ元ヨリ、大河帶

ノ如ク岡ヲ卷テ、要害堅固ノ勝地也、シカモ海陸自由ニシテ、繁昌ノ地ナル故ニ、此所ニ伽藍ヲ

建テ、上人即チ安居シ給フ、今ノ大坂ト云ハ、此地也、右京大夫晴元ハ元ノ如ク、堺ノ庄ニ入り替テ

斯ニ居住シ、人數ヲ催シ、武士ニハ木澤左京亮等、僧ニハ又日蓮宗ノ僧俗數多勢揃シ、同キ五月五

日大坂ニ押寄せ、攻ルト云ヘ共、元ヨリ堅固ノ要害ニ防グ兵多シテ、攻落ス事成難ケレバ、漸當分

ク和議ヲ扱ヒ、同キ廿日ニ寄手ノ諸勢等悉歸陣シケリ、

〔嚴助往年記〕○下天文十五年三月日、小坂講衆參宮、

弘治三年四月十七日、小坂本願寺、晴元女被相越云々、六角猶子云々、

〔信長公記〕○十三天正八年庚辰八月二日、○中抑大坂は凡日本一之境地也、其子細は奈良境京都程